

第二章

史跡指定等の概要



図2-11 史跡北条氏邸跡（円成寺跡）御所之内遺跡第13次調査遺構全体図

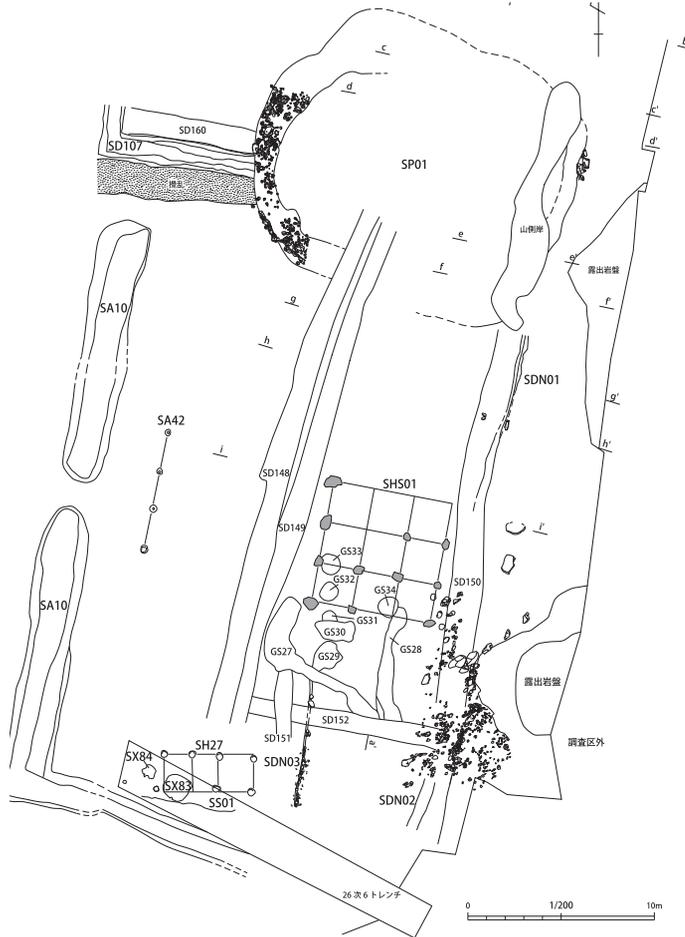


図2-12 史跡北条氏邸跡（円成寺跡）池跡・礎石建物跡周辺の遺構全体図



1 掘立柱建物跡・溝



2 掘立柱建物跡・溝



3 池跡・礎石建物全景



4 かわらけ出土状況

史跡北条氏邸跡（円成寺跡）発掘調査写真

### ⑤ 3 史跡の遺構変遷と課題

前述のとおり、3史跡は鎌倉時代から室町時代にわたって遺構が重層的に展開していることが判明している。図2-17は中世前期（鎌倉時代）、図2-18は中世後期（室町時代）の主な遺構配置図である。

中世前期は、北条氏の館、願成就院の段階に相当する。守山の北東麓に「館」（北条氏邸跡）、南東麓に「寺院」（願成就院跡）の空間が形成される。

中世後期は、円成寺、堀越御所の段階に相当する。守山北東麓には、北条氏の館の廃絶後に円成寺が建立され、15世紀後半までの遺構・遺物が確認できる。守山北麓には15世紀中葉から後半にかけて、円成寺と隣接して堀越御所が営まれていた。

いずれの時期においても、遺構の具体的な機能の解明や、3史跡にわたる空間構成の変遷を明らかにすることが課題になる。